

ダウト

2007(平成19)年3月17日鑑賞(ユウラク座)



監督・脚本＝ウェイン・ビーチ／出演＝レイ・リオッタ／LLクールJ／ジョリーン・ブレイロック／メキー・ファイファー／キウエテル・イジヨフォー／ティ・ディグス／ガイ・トリー／ブルース・マッギル (アートポート配給／2005年アメリカ映画／93分)

……トランプ遊びの「ダウト」を含めて、『ダウト』は日本人にも馴染みのある英語……？ 問題の発端は、『ワイルドシングス』と同じくレイプ事件だが、被害者が女性検事補というから大変……。レイプ犯の射殺は正当防衛、それとも……？ 全く食い違う証言、誰もその姿を見たことがないという裏社会のボスのカゲ、そして午前5時に何かが起きるとの予告……。そんな緊迫した状況の中、主人公である地方検事の捜査の行方は……？ そして、二転、三転、四転しながら、遂に到達するアッと驚く結末は……？

トランプ遊びとカメレオン……

トランプ遊びには、割と単純な「7ならべ」や「ババ抜き」から、知能の限りを尽くす(?)「ナポレオン」までいろいろあるが、この映画のタイトルそのものの「ダウト」もある。これは、人間はウソをつくものという前提のうえで、ウソを見破る能力を競うゲーム……。他方、この映画に登場するちょっと気色悪い爬虫類がカメレオン。カメレオンは周囲の環境に合わせて皮膚の色を変え、保護色とすることができるのが特徴。したがって、どれがホントの姿で、どれがウソの姿か容易にわからないから、「あの人はカメレオンみたい……」と言われるとちょっとヤバイ……。つまり、見た目を信じてよいのか、それともそのウラが真実の姿なのか、まさにこの映画の本質を象徴するのが、カメレオン。

そんなトランプゲームの「ダウト」と変幻自在な爬虫類カメレオンを頭に入れて、この映画を観ることが大切……？

発端は魅力的な女性検事補のレイプ事件……

この映画の主演は、記者のトリッピン（キウエテル・イジョフォー）から取材を受けている、市長への出馬も視野にいられている地方検事のフォード・コール（レイ・リオッタ）だが、ストーリーの核心を担うのは、魅力的な女性検事補のノラ・ティマー（ジョリーン・ブレイロック）。『愛ルケ』（06年）において、性愛の絶頂の最中に恋人冬香の首を絞めて殺した作家村尾を法廷で糾弾したのは、長谷川京子扮する女性検事。ところが、彼女は上司の検事と不倫の仲という日本の検察庁の実情では考えられない設定だった（？）が、『ダウト』に登場するノラも実はフォード検事と特別な仲……？

そんなフォードの耳に入ったのは、ノラが自宅でレイプ犯の黒人アイザック・デュパード（メキー・ファイファー）を射殺したとの報告。急いで警察へ駆けつけ、ノラから事情を聞くと、彼女の主張は正当防衛。つまり、雨の中ハイヒールが折れてしまったため、CD ショップへ入ったところ、店員のアイザックからつきまとわれるようになり、今日帰宅したところ、部屋に潜んでいたアイザックによってレイプされたが、その際アイザックを射殺したという説明。当然フォードは、恋人であるノラの主張を裏づけるための証拠集めに走ると思われたが……。

アイザックの友人ルーサーの証言は……？

そんなフォードのところに「話したいことがある」と訪れてきたのは、「死亡したアイザックの友人」と名乗るルーサー・ピンクス（LLクールJ）。ルーサーは死んだアイザックから、魅力的なノラの誘惑に乗り、ノラの自宅で何度も愛欲の恩恵（？）に浴したという話を聞いていた。「ウソをつくな！」と怒鳴るフォードだったが、ルーサーから「ノラのお尻にはすみれの入れ墨がある」と言われると……？ ノラがアイザックに近づいたのは、犯罪組織オーメンと手を組んでいると言われている、闇社会のボスでありながら誰もその姿を見たことがないというナゾの人物ダニー・ルーデンを調べるためだったらしい……。つまり、ダニーが殺人を犯す現場を見ていながら、その証言を拒否していたのがアイザックだったため、ノラはアイザックからその秘密を聞き出そうとしていたというわけだ。

論理的に考えれば、このルーサーの説明は正当で説得力があるもの……。

そこでフォードはノラにその疑問をぶつけ問い詰めると、ノラは、お尻の入れ墨については「ストーカーのアイザックが私の裸を盗み見したのよ！」と反論したものの、ダニーの捜査のためアイザックに近づいたことは認めたから、話はややこしいことに……。ノラの説明とルーサーの説明、さあそのどちらがホントで、どちらがウソ……？

この映画も都市開発絡み……？

3月15日に観たジュード・ロウ主演の『こわれゆく世界の中で』（06年）は、ロンドンのキングス・クロスの都市開発絡みの映画だったし、『鉄コン筋クリート』（06年）も宝町の都市開発絡みの映画で、不良少年、ヤクザ、警察官らが暗躍する物語だったが、この『ダウト』でも、広大な土地を買い占めたダニーが目論んでいるという都市開発問題が大きな背景にあるらしい……。

もっとも、その近隣には「公団」が所有しているデッカイ土地とビルがあるため、そのビルの解体が10年以上先になれば、ダニーが狙う都市開発は思うとおりに進まない、というのがフォードの読み。しかし、もしそのビルが爆破され、一夜にしてなくなってしまう……？ そんな恐ろしい土地利権絡み、都市開発絡みの話が、レイプ事件の真相解明の中で大きなポイントになってくるから、その意味でもこの映画はややこしい……？

検察と警察の縄張り争いは……？

日本では検察の捜査と警察の捜査が縄張り争いをしたり、対立する姿はあまり見かけないが、アメリカではそういう姿を見ることがよくある。それがこの『ダウト』でも顕著……。すなわち、ゴドフリー警察局長（ブルース・マッギル）は、当然ノラの身柄を拘束して、警察が殺人事件の捜査に入ると主張したのに対し、フォードは「夜明けまでは自分の捜査にまかせてくれ」と要求。しかし、これって本当はフォードがノラの恋人だからというだけの根拠だから、そりゃ公私混同もいいところ……？ したがって、ゴドフリー警察局長は表立ってそれを認めることはできなかったが……？

なぜかノラはジェフリーの起訴を取り下げ……

日本では捜査権は検察と警察の両者が持っているが、起訴・不起訴の権限は検察が独占している。そして、それはアメリカでも同じ。というより、現在の日本の刑事訴訟法の制度は、1945年の敗戦後、それまでの大陸法的な刑事訴訟法から英米法的な刑事訴訟法に大きく切り換えたのだから、基本的に日本がアメリカと同じ刑事訴訟法のシステムになっているのは当たり前。

このように大切な起訴・不起訴の権限を検察が独占しているにもかかわらず、なぜかノラは2日前にオーメンに所属している犯罪者ジェフリー・サイクス（テイ・ディグス）の起訴を取り下げている。このジェフリーはきっとダニーの秘密を知っている、そうにらんだフォードは留置所にいるジェフリーを訪れ、真相を探ろうとしたが……？

午前5時に何が……？

ノラに対するレイプ犯アイザックの事件を調べていけばいくほど、ナズがナズを呼び、迷宮に入っていくフォードだったが、そんなフォードにプレッシャーをかけたのは時間の壁。それは、第1にゴドフリー警察局長との「夜明けまで時間をくれ」との約束(?)だったが、それ以外にもフォードのケイタイに入っていた「午前5時に何が起ころう」という不気味な予告……？

折しも、捜査のためにアイザックの自宅に入った警察官2人は、オーメンに属する2人の若者によってガソリンに火をつけられ、あやうく焼き殺されそうになった。また、公団ビルのガス漏れ事故のため、ビルから避難する人たちが道路がごった返したり、さらにその混乱收拾のため警察が群衆に対して発砲したため、逆に混乱が拡大。このように、その夜は、明け方までいろいろな事件が続発。その間、フォードは必死に捜査を続けてきたが、遂に午前5時が近づいてきた……。さて、そこで起こったのは一体ナニ……？

よく練られた脚本とカメラの冴えに感心……

冒頭の少女レイプ事件から始まり、美少女2人と怪しげな教師、警察官、弁護

士が登場し、二転、三転、四転、五転するメチャ面白いサスペンス映画が『ワイルドシングス』（98年）だったが、この『ダウト』もそれとよく似た騙し合いを競う映画。したがって、以上紹介した物語の後に次々と展開されていく真相解明ゲームについては、ここでこれ以上書くことができないのは仕方ない。それはあくまで、あなたの目でスクリーン上で観てもらいたい。パンフレットによると、この映画の脚本づくりには5年の歳月を費やしたとのことだが、その苦労はよくわかる。まさに凝りに凝り、ひねりにひねった脚本の出来に感心。次々と起きる予測を超えた出来事と、アッと驚く結末をお楽しみに……。

また、この映画で感心するのはカメラの冴え。スリラーもの、サスペンスものの色彩は暗いものが多く、『ダウト』も基本的にそうだが、白黒のコントラストをあえて強調しているところが私は大好き……。また、ノラがフォードやアイザックとの間で見せるセックスシーンも、『愛ルケ』のそれのような露骨なものではなく、陰影に富んだミステリアスなところが実にいい味に……。

人種問題についても面白い問題提起が……

ハリウッド映画が人種問題を描く場合、私たちは普通白人による黒人差別を想像するはず。ところが、この映画が描く人種問題のテーマは、「白人が黒人に憧れる」ということ。この映画でファム・ファタール（「フィルム・ノワール」などに登場して男を惑わせ、道を誤らせたり破滅させたりする運命の女）（『映画検定 公式テキストブック』191頁参照）となるノラは、両親の一方が黒人という設定……。日本人の私にはよくわからないが、そんな場合、黒人色を薄めて白人色になるよう努力するのが普通と思えるのだが、ノラは逆で、黒人色に憧れ、自分を黒人色に染めようとしていたらしい……？

現在のブッシュ政権下における黒人であるライス国務長官は、すごい秀才らしく、将来の大統領候補の1人（？）だが、当然それは例外で、検事局の中はやはり白人優位の世界では……。すると、ノラが白人よりも黒人に憧れたのはなぜ……。そして、そんな彼女の人種傾向から生まれてきた彼女の行動は……。そんな視点からも、この映画の「ダウト」性を大いに楽しみたいものだ。

2007(平成19)年3月19日記